

---

# それでも空はいつも綺麗だった

藤森優斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

それでも空はいつも綺麗だった

### 【Nコード】

N2879I

### 【作者名】

藤森優斗

### 【あらすじ】

誰かのもとに届くように。誰かの心に届くように。誰かの助けになるように。誰かの命を救うように。メッセージとは届く為にある。届けたい想いがある。詩には沢山の想いが込められている。それが貴方に届きますように。

## 温もりの唄

知らせなきや 増やす思い出の中で  
いつまでも消えないモノが確かにある事を

聴かせなきや 来たる未来の者達に  
いつまでも褪せない唄がこの場所にある事を

見間違いも無い 間違えじゃない  
溜め込むだけなら 「思い」 だろ？  
吐き捨てなきや 投げ飛ばさなきや  
いつまでも消えない 「思い」 にして

あの詩人が書いた 詩は今も生きていて  
何年後かの誰かにもまた 新たな「思い」を与えるだろう  
そうやって生きてきた 誰だってそうだった  
間違いなく あの詩は人を温めた

気づかなきや まずはそのから始めよう  
君を育てたあの場所が全ての始まりだと

伝えなきや 言えずと分かるものだけど  
君を育てたあの人に全ての「思い」をね

首絞める分 近づくものがあるだろ？  
死にたいだけなら 笑えるよ  
振り返らなきや 見渡さなきや  
痛みと共に伴う「生命」を

あの詩人が書いた 詩は今も生きていて  
何分後かに少女の手首を治す薬になるだろう  
そうやって生きてきた 傷舐めて生きてきた  
疑いようもなく あの唄は救いの手をくれた

貴方を温める唄を歌おう

いつまでも冷めない 確かな想いを

貴方が生まれ育つ場所を知ろう

いつまでも冷めない 確かな愛で

あの詩人が死んだ今も 確かに人は温められて  
死にたいとか 嫌だとか そんな事言いながらも 生きている

あの詩人が書いた 詩は今も生きていて  
何年後かの誰かにもまた 新たな「想い」を与えるだろう  
そうやって生きてきた 誰だってそうだった  
間違いなく あの詩は人を温めた

あの詩人が書いた 詩は今も生きていて  
何分後かに少女の手首を治す薬になるだろう  
そうやって生きてきた 傷舐めて生きてきた  
疑いようもなく あの唄は救いの手をくれた

あの詩が人の命を一つ救った

あの詩は僕の命を確かに救った

## Direct Download

そんなにさ 抱え込まなくて 失うモノばかりじゃないだろ  
息しろよ 生き急ぐなよ 通り過ぎには気をつけて

どんなにさ 伝えたい事一つあったって 簡単に口に出来やしない  
だろ

息しろよ 行き過ぎるなよ 出来過ぎるよりは可愛いよ

で、どうする？ なあ、どうする？

そんなもんだろ ゴールはいつもすぐ近くだ

そして、誰かが待ってくれる そこで誰かが待ってくれる  
そうさ、誰かが待ってくれる 此处で誰かが待ってくれる

息しろよ

死ぬのなんて また今度でいいじゃん  
死にたいなんて ただの時間の無駄じゃん

まあ、でもさ 困り果てた世界の中で 確かに綺麗なもんもあんだろ  
上見ろよ ちゃんと見ろよ そこに広がる空を素晴らしさを

で、どうする？ なあ、どうする？

こんな駄目だ ゴールはいつも目の前だから

そして、誰かが待ってくれる そこで誰かが待ってくれる  
そうさ、誰かが待ってくれる 此处で誰かが待ってくれる

息しろよ

死ぬのなんて また今度でいいじゃん  
死にたいなんて ただの時間の無駄じゃん

なあ、白い息を知れ   なあ、黒い闇も塗れ  
なあ、赤い血が垂れ   なあ、青い空を見ろ

君の事を待つてる人が 僕の事を待つてる人が  
確かにいるだろう 誰かが待ってんだろ

そして、誰かが待つてくれる   そこで誰かが待つてくれる  
そうさ、誰かが待つてくれる   此处で誰かが待つてくれる

息しろよ

死ぬのなんて また今度でいいじゃん  
死にたいなんて ただの時間の無駄じゃん

待つてくれる   なあ、待つてくれる？  
待つてくれる   なあ、待つてくれる？

## 故郷の風

この路地を抜けると よく陽の当たる場所があつて  
そこで今日も昼寝しよう 人は俺を構わないし

野良猫仲間が通りで平らになつて死んでいたつて  
涙を流す事もなく そんな現実にも馴れててさ

ああ 失うモノばかりだろ

ああ くだらない程暇だろ

ああ 俺もいつか死ぬだろう

ああ 誰も泣いてはくれないだろ

この街で生まれ育つた 後は死んでいく  
この街で生まれ育つた だから死んでいく

あの魚屋から何度も万引きしたもんだ  
八百屋の親父は優しいがいつも厳しさを持つてたよ

ああ 辛い事も少ない

ああ くだらない事は多い

ああ 俺もいつか死ぬだろう

ああ 魚屋は泣くだろつか

この街で生まれ育つた 後は死んでいく  
この街で生まれ育つた だから死んでいく

夢ではいつも人気者だった

「この街は俺のもんだ。俺が偉いんだぜ」

夢ではいつも人気者だった

「誰か俺を知らないか？ 見失ったよ」

目覚ましな 此処はいつも通りの通りだ  
目覚ましな 此処はいつも通りの通りだ

ああ 失うモノばかりだろ

ああ くだらない程暇だろ

ああ 俺もいつか死ぬだろう

ああ 誰も泣いてはくれないだろ

この街で生まれ育った 後は死んでいく  
この街で生まれ育った だから死んでいく

ああ 辛い事も少ない

ああ くだらない事は多い

ああ 俺もいつか死ぬだろう

ああ 魚屋は泣くだろうか

この街で生まれ育った 後は死んでいく  
この街で生まれ育った だから死んでいく

この街で僕は静かに死んでいく  
この街で僕は静かに死んでいく



## 変わらない森

言葉 多様に逃げる術は既に心得て

上手くはいかない日常を上手く過ごしてる

無くす事 要はそれが大切な事か

思い通りにいかない日常を思い通りに生きてる

聴こえる 狂い無く繰り返す鼓動 リズム

聴こえる 絶える事無く鳴り響く悲鳴 やめて

貴方が此処で生きていく その何処に嘘があるのだろう

素直に生きて 思い通り生きて その何処に本当があるのだろう

何もかも全て 意味が欲しい

確かに有る事が出来る 本当の意味が欲しい

何も頼ってない振りして二足歩行は辛くて

歩いても辿り着かない目的地に歩いてく

泣かす程 俺は思い込めてないはず

だけど 泣いた子が目の前にいる現状

震える 寒くないのに小刻みな両手 リズム

震える 怖さに怯えるはずなのに悲鳴 聞いて？

貴方が此処で生きていく その何処に嘘があるのだろう

素直に生きて 思い通り生きて その何処に本当があるのだろう

何もかも全て 意味が欲しい

確かに有る事が出来る 本当の意味が欲しい

嘘ばかりで埋まった世界 それこそが何より本当だ

平和に生きていたい 愛が 愛が 愛が 愛が欲しい  
嘘ばかりで埋まった世界 それこそが何より本当だ  
死ぬようには嫌 愛が 愛が 愛が 愛が欲しい

誰もが生きてく世界だから そこに真実の嘘があるのか？  
素直に生きて 思い通り生きて それが本当でも嘘でも  
なあ、世界は確かに此処にあるだろ？

貴方が此処で生きていく その何処に嘘があるのだろう  
素直に生きて 思い通り生きて その何処に本当があるのだろう  
何もかも全て 意味が欲しい  
確かに有る事が出来る 本当の意味が欲しい

必要だから とりあえず 君は此処に有る  
必要だから とりあえず 僕は此処に有る

S・O・S

何が一体どうなってるんだ？

訳がわからねえよ 突然 世界は俺を殺す

誰か頼む返事してくれよ

パニクっちゃって 現在 目回してんだよ

何が一体どうなってるんだ？

意味わからねえよ 殺人？ した覚えなんて無い

誰か俺を庇ってくれよ

参っちゃうな 何だよ お前も犯人扱いだよ

知らねえよ 何だよ 何か関係あんのだよ

知らねえよ 殺したのは他人じゃない 自分自身なんだぜ？

だから 苦しい世界が嫌になったんだ

自分自身を殺しても 生き残る訳がさ

だから 自然と前髪は伸びていったんだ

この汚い世界を見ない為に 目を合わせない為に

絶対なんて言葉があるの？

意味分かってんの？ なあ、そんな言葉無いだろ

誰か世界を救ってやれよ

他人事なんだ そんなもんさ 世界は一人だ

知らねえよ 誰だよ 「生きたい」って言うてるの

知らねえの？ 生きてる内は「死にたい」で 死んだら「生きたい」  
だろ？

だから 苦しい世界が嫌になっただ  
自分自身を殺しても 生き残る訳がさ  
だから 不思議と手首は痛んでいた  
刃物は血を好むように見える

誰か返事してくれよ……  
誰か聞いてくれよ……

だから 苦しい世界が嫌になっただ  
自分自身を殺しても 生き残る訳がさ  
だから 自然と前髪は伸びていったんだ  
この汚い世界を見ない為に 目を合わせない為に

だから 世界はいつも汚いままでいた綺麗な部分など見えないまま  
でいた  
だから 寂しくていつも角で泣いていた  
汚い世界で綺麗な涙を流していた

## 涙と出逢えたら

君の事を知っているよ

部屋の角で膝抱えて 苦しそうにする姿を

君の事を知っているよ

あの人に振られて凹む その頬を撫でたからね

近付いた分だけ 悲しむ君がいた

だから 僕は引き下がったんだ

すると 君が万遍の笑みで

僕がいない所で いつも綺麗に笑うらしい

知っていたよ 分かっていたよ

邪魔になる存在なんだと

知っていたよ 分かっていたよ

僕がいないなら 君は幸せになると

君の事を知っているよ

馬鹿にされた夕方時 一緒に見た茜空をね

君の事を知っているよ

どんな寂しい時にも 僕はずっと近くで見守っていたから

お呼びなら喜んで行くのだけど

君はいつも悲しそうにしてた

何故なのかって どうしてかって

ごみ箱の様な僕の世界だ

知っていたよ 分かっていたよ

寂しそうな君の頬を撫でて

知っていたよ 分かっていたよ  
相変わらず 君は膝を抱えていた

間違いじゃない 思い違いじゃない 本当に僕はいらなの  
間違いじゃない 思い違いじゃない 僕がいる時に君は寂しがる

もう、別れたいけど本当は寂しいよ  
君が笑うと僕は寂しいよ

何故なのかって どうしてかって  
僕の居場所が宝石箱だと信じたい

知っていたよ 分かっていたよ  
僕がいなくなればいい 素直に消えればいいんだ  
知っていたよ 分かっていたよ

僕が全ての原因だ 素直に「さよなら」だよ

涙の事を知っているよ  
私が寂しくしていても 頬を撫でてくれるから  
涙の事を知っているよ  
膝抱えて出逢えたから 私は笑うよ

嬉しくて つい涙を流す そんな場面でね  
僕はやっと出逢えたよ 君のその笑顔に

## そして光の中へ

雨水から命を救った 汚れた ただの水溜まりなのに  
泥水から光を掬った 溺れた 俺の右足を捨てても

失敗だ 失態だ

生まれた事から間違えたのか

天国までその身を投げて 堕ちた 光が射してる闇の中

失敗だ 失態だ

生きていく事まで間違えなのか

だから 孤独が無くなると 何処か嫌だった  
独りでいないと 何かが嫌だった

だけど 不思議と生きてく事が良かった

光が射してる 残酷な世界で

ねえよ もう この世界には見つからねえよ  
ねえよ もう この世界には生きてけねえよ

失敗だ 失態だ

生まれた事が間違えていても

失敗だ 失態だ

生きていく事が間違えていても

この世界に光が射している限り うるせえ 黙って生きる

だから 孤独が無くなると 何処か嫌だった  
独りでいないと 何かが嫌だった  
だけど 不思議と生きてく事が良かった  
光が射してる 残酷な世界で

残酷な世界で くだらない世界で 息をしろ

## START「END

暗い性格　なんか文句あるの？

世界は俺を見ちゃいねえさ　アンタも俺を気にしないだろ？

苦しい時代だね　助けが欲しいね

構わないでくれ　温もりは怖いね

悲しいニュースだけ　テレビは残酷だな

なあ、誰か助けてくれんの？

もう、わかんねえよ　訳ねえよ

くだらねえよ　腐ったみてえだ

もう、知らねえよ　意味ねえよ

くだらねえよ　狂った世界だ……

街中に流れる　上辺だけの音楽か？

本当に良い曲なんて陰の中で静かに響く

苦しい時代だね　助けが欲しいね

終わりそうだね　世界が崩れたね

何も出来ないね　救い用がないね

なあ、あのブルースは何処だ？

もう、わからねえよ　訳ねえよ

くだらねえよ　腐ったみてえだ

もう、知らねえよ　意味ねえよ

くだらねえよ　狂った人々だ……

底はねえよ　そこには何も見えねえよ

明かりが小さく有ったけど　それもつかの間　すぐ消えた  
なあ、誰か分かってくれんの？

終わらねえよ……

全部 くだらねえよ……

終わらねえよ……

全部 くだらねえよ……

なあ、誰か生きて行けんの？

なあ、誰か助けてくれんの？

もう、わかんねえよ 訳ねえよ

くだらねえよ 腐ったみてえだ

もう、知らねえよ 意味ねえよ

くだらねえよ 狂った世界だ……

もう、わかんねえよ 訳ねえよ

くだらねえよ 腐ったみてえだ

もう、知らねえよ 意味ねえよ

くだらねえよ 狂った人々だ……

くだらねえよ 狂ったモノ同士

くだらねえよ 全部がくだらねえよ

## LOST MYSELF / LOST YOURSELF

何回聞いたって同じだって言ってるんだろ？

君も僕もいつの間にか壊れたのさ

「死にたい」　なあ　「死にたい」　ああ……

言う程苦しい　何度目の自殺志願だ？

なんか病んじやって　マイナス思考？　当然じゃん

君も僕もいつの間にか狂ったのさ

「死にたい」　なあ　「死にたい」　ああ……

手首切り裂いて　滴る血で息をする

ああ　皆　頭変だろ？　どうなってるんだ？

ああ　何も無い闇の中　もう　死にたいよ　「何だって？」

Come back / LOST MYSELF　光を求めて　僕等

くだらない世界で何度も呼吸を試みた

Come back / LOST YOURSELF　痛みを抱えて

僕等

汚い水の中　最後の呼吸で全てを……

酸素減っちゃって　自殺志願者の二酸化炭素

君も僕も初めからその気だった

「死にたい？」　嫌　「生きたい」　いや……

答えの無い問い　生死の狭間で息をする

ああ　全部　くだらない　どうなってるんだ？

ああ　影の無い歩道舐めてみたいよ　狂ってるんだ

C o m e b a c k / L O S T M Y S E L F 光を求めて 僕等  
鮮血な世界で確かな血を流している

C o m e b a c k / L O S T Y O U R S E L F 痛みを抱えて  
僕等

腐っていた心から 最後の言葉で全てを……

有刺鉄線に包まって 眠ろうか

君も僕も気付けば まだ 生きている

「死にたい？」 なあ 「死にたい？」 嫌？

言うのにも飽きてきた 生死の狭間で息をする

ああ 「死にたい」なんて ちゃんと生きてから言えよ  
どうなってんだ？ なあ この世界はどうしたってんだ

C o m e b a c k / L O S T M Y S E L F 光を求めて 僕等  
くだらない世界で何度も呼吸を試みた

C o m e b a c k / L O S T Y O U R S E L F 痛みを抱えて  
僕等

汚い水の中 最後の呼吸で全てを……

C o m e b a c k / L O S T M Y S E L F 光を求めて 僕等  
裏切り合い 殺し合い 何度も命を確かめた

C o m e b a c k / L O S T Y O U R S E L F 痛みを抱えて  
僕等

誰よりも堕ちてった 最後に迎える結末を  
最後の最後に残しとけよ



## 新世界の讃歌

変わらない モノに何を望んだって  
変わらない のに変わらない素晴らしさがある  
愛を知って何故 それ故のモノを求める  
愛を知ってんだぜ それ、上の方を眺める

此処が世界で有る限り 明日も世界で有る限り  
此処が世界で有る限り 明後日も世界で有る限り  
新世界へ さあ、変わらない新世界へ

伝わらない 言葉一つじゃ何だって  
伝わらない けど伝わる奴もいるんだぜ  
愛を知って何故 それ故のモノを求める  
愛を知って無駄か？ なら、死を知る方がいい？

此処が世界で有る限り 明日も世界で有る限り  
此処が世界で有る限り 明後日も世界で有る限り  
新世界へ さあ、変わらない新世界へ

ああ 始まりはいつだって その「ドン！」で幕開いて 手鳴る方  
へ……

永遠なんて言葉 意味なんてわかんねえよ ねえよ  
寝ても覚めても 変わらない毎日を飾らない美しさ  
で、簡単じゃないさ だって 変わらない中で変わっていくから

愛を知って何故 それ故のモノを求める  
愛を知ってんだぜ それ、上の方を眺める

此処が世界で有る限り 明日も世界で有る限り  
此処が世界で有る限り 明後日も世界で有る限り  
新世界へ さあ、新世界へ

愛を知ってんだぜ 迷うなって  
愛を知ってんだぜ 逃げんなって

## 白銀の世界

誰もいなくなつた世界で 私は貴方を想つて生きるの  
出会えた事を唄にして 私は貴方を想つて生きるの  
左耳のイヤホン外して 自然とブルースの両立を  
世界はいつも此処にある 貴方を想つたままの世界が

白い絨毯に刻む一本道

歩幅の大きい足跡が寂しく消えていった

寒いのに 温かくなつた

矛盾を壊す愛がある

誰もいなくなつた世界で 私は貴方を探して生きるの  
狂つた目をして唄を歌う 私は貴方を探して生きるの  
右目のコンタクトレンズ捨てて 嘘と真実の世界を

世界はいつも此処にある 貴方を無くしたままの世界が

焦げたパンに挟むジャムの様

そんなものに挟まれながらも生きていく、って

汚い世界に溶け込むように

汚れた者同士 生きている

ああ 白銀の世界に 僕の鼓動を刻むように

ああ 白銀の世界に 君の温もり刻むように

白い絨毯に刻む一本道

歩幅の違う足跡で平行線が出来るといい

寒いのに 温かくなった  
矛盾を壊す愛がある

白い絨毯に刻む平行線  
その延長線上に交点が出来るといい

寒いのに 温かくなった  
矛盾を壊す愛がある

実態の無い 愛がある  
存在の無い 愛がある

それでも空はいつも綺麗だった

嫌になる今日があつて 見たくない明日があつて

頼りにならない昨日を捨てて 掛け替えの無いイマがある

そんな事言つて やる気なんて感じられない

そんな事言つて 生きる気すら感じられない

上手くはいかない日常なのに 上手く過ごしてきた

もう、疲れたよ、腐ったよ 何処か違う世界がいい

ああ 狂ったモノばかり

ああ 壊れた想いばかり

それでも空はいつも綺麗だった

逃げたくなつた月曜があつて 本当に逃げた火、水があつて

手首を切つた木曜があつても 包帯巻いた姿の金曜がある

そんなもんだろ 死ぬ事で精一杯で

そんなもんだろ 生きる事には疎い者で

汚れてしまった世界に汚れた者同士馴染んで

もう、疲れたよ、腐ったよ 何処か隠れる場所が欲しい

ああ 違った答えばかり

ああ 狂った決まりばかり

それでも空はいつも綺麗だった

これから先、どうすればいい？ もう、汚れて姿も見えないが……

これから先、どうすればいい？ もう、狂っちまった世界だが……

少女が「死にたい」と言った今日　それでも空は綺麗だった  
彼女が「死にたい」と言った今日　それでも空は綺麗だった

誰もが「死にたい」と思った、その日　曇りだろうが　雨だろうが  
人が抱えるモノに比べれば　やっぱり、空は綺麗だった

ああ　狂ったモノばかり

ああ　壊れた想いばかり

それでも空はいつも綺麗だった

ああ　嫌になった今日

ああ　もう、いらぬ明日

それでも空はいつも綺麗だ、だから……

変わらない世界なんだよ　君が産まれた日と変わらない日なんだよ  
生死の狭間で息をする　そんな毎日だ……でも、それでも空はいつも綺麗だった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2879i/>

---

それでも空はいつも綺麗だった

2010年10月8日22時04分発行